

## メーデー宣言

本日、私たちは第 88 回佐賀県中央メーデーを開催した。

尊い命を奪い甚大な被害をもたらした東日本大震災から 6 年、熊本県を中心とする九州地震から 1 年が経過した。今なお多くの方々が、避難生活を余儀なくされているなど不自由な生活を強いられている。

巨大災害の経験により、私たちは「人與人」とが支え合い、助け合わなければ生きていけないことを改めて学んだ。震災を絶対に風化させない、そして絆を深めた仲間とスクラムを組んで被災地を全力で支え続けていく。

世界に目を向けると、グローバル化の負の側面による格差や貧困の拡大と、保護主義の台頭や頻発するテロリズムなどが相まって、人々の不安は高まっている。国内においても、差別を助長する排他的な言動が横行するなど、社会の分断が進んでいる。今の政治に必要なのは、対立を煽るのではなく、持続可能で包摂的な社会に向けた責任ある言動、さらに丁寧な対話と発信である。

連合がこれまで取り組んできた長時間労働の是正や同一労働同一賃金の法制化は、「働き方改革実現会議」のもとで「実行計画」として、意義ある一里塚を刻んだ。「実行計画」の着実な進展に向け、これからも不断の努力を重ねるとともに、その実効性を確保するための集団的労使関係をあらゆる職場に構築していかなければならない。

2017 春季生活闘争は、全ての働く者の賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」を通じ、経済の自律立的成長を促す取り組みである。大手追従・準拠の構造改革に挑み、その取り組みも前進している。賃上げの継続にこだわり、4 年連続で賃上げが実現している。

政策制度の実現を通じた雇用の安定と質の向上、社会的セーフティネットの拡大・強化による子育て、医療、介護など将来不安の解消にも全力で取り組む。

「メーデー」は労働者の国際連帯の日である。そして 8 時間労働制の原点の日でもある。私たちは国際労働組合総連合（ITUC）と連携し、戦争や紛争、テロはもちろん、格差や貧困、環境破壊や人権侵害を撲滅し、さらに世界中でディーセントワークが確立できるよう、真摯に取り組む。

「メーデー」は、私たち労働者にとって「特別な日」だ。志を同じくする全ての働く者や生活者、関係団体やNPO・NGOと一つとなり、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、連帯を強化し全力を挙げることを、ここに宣言する。

2017 年 4 月 29 日  
第 88 回佐賀県中央メーデー